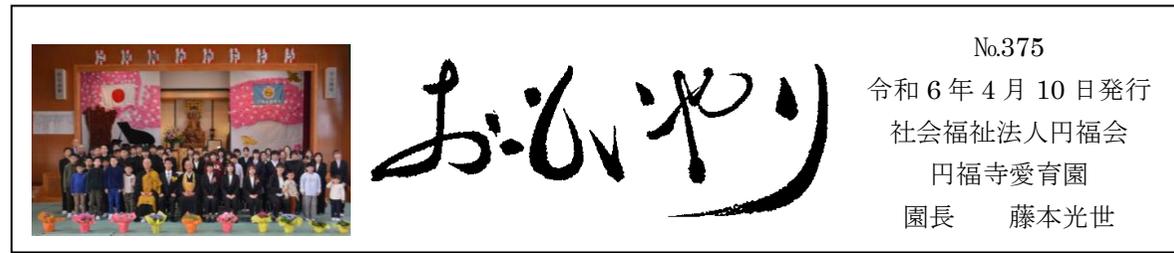


今年も盛大に、卒園生を送り出すことができました。新年度スタートです。



卒園式

園長 藤本光世

今年は、25人ものご来賓の皆さまのご臨席を賜り、2名の児童を送り出すことができました。男子児童は2歳から16年間、女子児童は4歳から14年間も愛育園で生活して、それぞれ自衛隊とリネンサブライに就職していく。愛育園が子どもたちを立派にして卒園させられるように養育力が高まって、子どもたちもそれに応えて立派になり、卒園式は大変感動的なものになった。卒園式で泣き、玄関前での別れの時に子どもたちはみんな泣いていた。(もちろん私も)



二人の児童のお別れの言葉を聴いて、子どもたちは高校3年になって大きく成長すると感じた。現実を知り、現実と向き合って自分を成長させる。一人で生きていかなければならない厳しさが分かって自分を成長させる。養育でも教育でもいえることだが、「わかる」ということは「かわる」と言うことであり、「かわる」は自分で変わろうとしないかぎり変わらないのだ。

愛育園の実践は、子どもたちが自分から変われるように毎日を積み重ねることである。子どもたちが自分から変われるように毎日を積み重ねるとは、具体的にはどんな養育実践なのだろうか。

(令和6年4月10日発行 月刊「円福」523号付録)

それは、外で思いっきり遊ぶことである。集団遊びの楽しさを心の底から味わうことである。それを積み重ねるのだ。そうすると、本当に不思議なことなのだが、入所して一週間もすれば子どもは顔つきまで変わって、いい子になってしまう。本当に不思議なことが起きるのだ。

3月12日付でこども家庭庁から、『都道府県社会的養育推進計画』の策定について』の通達が届いた。その内容は、これまでの流れから言うまでもないことだが、「家庭的な環境」で育てることが子どもの最善の利益だから、まず里親委託、次にファミリーホーム、次に問題のある児童は小舎制児童養護施設で、当園のような大舎の中舎制の児童養護施設はまったく視野にないのである。でも、考えてほしい。養育規模を小さくすれば、子どもを外で思いっきり遊ばせることができるのだろうか。子どもが体を動かし、健康に、心の底から楽しいと思える日々を送ることができるのだろうか。手作りの美味しい食事、季節感に合った食事、さまざまな行事の食事を提供できるのだろうか。

養育規模を小さくすればその職員の、あるいは里親さんのどんなかわりによって子どもは自ら自分を変えようとするのだろうか。そんな実践事実はあるのだろうか。国はそして社会的養護を担う人々は幻想に向かって、進んでいるように見える。少なくとも、子どもの変化で実践事実を示すべきではないか。そのつけを被るのは、家庭的な環境に措置された子どもである。不調に終わるとすべて「子どもが悪いのだから仕方がない」と自己責任に帰されてしまう。数値目標を決め、無理やり進めた人は責任を取らないし、とれない。子どもがかわいそうである。

令和5年度は、創立75周年記念式典があった。そして感動的な卒園式があった。愛育園の子どもたちの事実を参列された皆さんに示すことができた。それはその瞬間のもので消えてしまうものである。しかし、参列された皆さんの心にはしっかりと残って、息づいているのである。生きているのである。勇気を与えたのである。それらをさらに積み上げたいと思う。もっともっと積み上げたいと思う。

令和6年度に向けて

1. 心の健康

規則正しい日課に沿った早寝早起きの生活、おまいりで心を清くすること、決まった時間に提供される、手作りの心のこもった美味しい食事。これらはすべて子どもたちの心の健康のためである。愛育園の職員は力を合わせて、心を込めて、一致した方針で子どもたちの心の健康を増進しよう。

2. 一致した養育方針による集団養育

五年度末の子どもへの激しい暴言に一致した方針で対応して、子どもが自ら変わるという事実を見た。これは、本当に凄いことだ。心理の専門家によるのではない。養育の専門家によるのではない。小規模にしたのではない。ユニットに押し込めたのではない。緊急ホーム会議

を開き、互いに心の弱さをさらけ出し、現状を共有し、暴言を受けることに積極的な意味を見出し、一致した方針でやってみてできたのだ。これは大きな財産になった。これをもっと押し進めよう。それには、職員がお互いにお互いをおもいやる心と何でも話せる人間関係づくりが重要であることは言うまでもない。

3. 子どもに心を開くことと、緊張感を持った養育

子どもに心を開くことは重要だ。職員が心を開いてこそ子どもは心を開く。子どもが心を開くとはどういうことだろう。それは、その職員と一緒にいることに安全と安心を感じることである。すると寄り添ってくる。子どもが寄り添ってくると職員は嬉しい。でも、この時に心のどこかで油断があってはいけない。なぜ、この子は寄り添ってくるのだろうか。その意図は何だろう。子どもの心を読まなければならない。それが「緊張感を持つ」ということである。

すると、子どもの行動について、その背景を常に考えるようになる。拗ねて言葉が入らない時や、暴言を吐かれるときも同様だ。そして、勤務に入るときに考え、心の準備し、反芻する。こうできるようになれば、養育力は高まるだろう。そして、そのことをホーム会議で具体的に披歴して考えあえば、ホーム全体の養育力の高まりにつながるだろう。そんなことを期待したい。

4. よく遊びよく学ぶ 自立の原動力になる

愛育園の職員は、子どもとともにある。どうやったら子どもが喜んでくれるかいつも考えている。そして実践する。集団遊びは楽しい。自然の中で思いっきり体を動かし、体験する。子どもの健康な喜びは、必ず子どもの自立の力の原動になる。子どもたちはその力をもって自ら変わろうとし、自立していこう。

5. 子どもに自信を…行事の創造

行事は、創造である。前年踏襲は退歩である。新しい、初めてのことに挑戦して子どもたちは自信を持つ。それは、子どもたちの自立と幸せに結びつくだろう。

愛育園は集団指導体制による集団養育によって、措置された子どもたちを幸せにすることを誓う。

卒園式を終えて

主任指導員 T・M

3月24日に卒園式がありました。高校3年生の男子1名、女子1名が卒園していきました。印象的に感じたのは、卒園式の当日、2人ともどこか堂々とした立ち姿を見せ、社会に出る不安よりも自信の方が勝っている雰囲気を感じ出していた事です。2人とも本当に良く成長したなあと感じていましたが、最後、その事を自分たち自身で実感しているように見てとれて、それがとても嬉しい気持ちになりました。というのも、2人とも愛育園での生活も長いし、根本的に良い子

でしたが、課題もあったからです。男子児童のH君の方は、感情面の乏しさから善悪の判断がつかない時があったし、女子児童のAさんの方はマイペース過ぎて周囲に疎まれてしまう傾向がありました。

しかし、卒園式の日には、H君は学校の先生や来賓の方や園職員から「本当に良い子で、大好きで、うれしいなあ」と賞賛と喜びを伝えられ、Aさんの方は、まごころホームと一緒に過ごした職員と児童に涙ながらに別れを惜しまれていました。

私は、この様子がこれまでの本人たちの努力の現れだと思いました。自分の課題と向き合って、決してあきらめる事なく卑屈になる事なく、自分の課題を克服するというよりは受け入れて、同時に自分の強みに目を向けて、日々の生活を積み重ねていったその結果、周囲の人たちが喜び悲しんでくれたのだと思います。

そして、それは身近で支え続けてくれたホームの先生方の責任感と愛情の賜物でもあると思います。卒園式で祝福され惜別されている様子をふと遠目から眺めていると、もし私たち職員が子ども達の課題や自立という事に表面的でいい加減な対応をしていたら、目の前の光景は全く別の物になっていただろうという気持ちになりました。

特に女子児童のAさんの方は高校3年生の就職活動を機に感情が表に出るようになった事で親しみやすさが出て周囲に好かれるようになりましたが、それは世話焼きの担当の先生がコミュニケーションとアドバイスをずっと続けてくれたおかげで、人と話す事の楽しさを覚えたからではないかと推測しています。

子供の様子に大きな変化が出てくるまでには時間がかかります。それも半年や1年でなく、5年6年くらいかけてようやく変化するように思います。長いですが必ず花開く日が来るので毎日の積み重ねをやめない事を大事にしています。長いですが子ども達のその後の更に長い人生が幸せなものになるように辛抱強く関わり続けています。

毎年、卒園式を終えると、一安心してから、「よし、来年度も頑張ろう」と気持ちが引き締まりますが、今年の2人もまさにそうで、立派な姿に希望を与えてもらいました。

自衛官の道に進み、すでに着隊しているH君からは、つい先日「一日一日長く濃い時間を過ごしていますが、やりがいを感じています」と連絡をもらいました。本当に嬉しく誇らしいです。

そんな喜びの気持ちを胸に、今年度も充実の1年を過ごしていきたいと思います。

卒園生の2人を支えて下さった全ての皆さん、本当にありがとうございました。





卒園式

まごころホーム長 I・S

令和5年度の卒園式が3月24日に無事行われ、2名の児童が巣立ちました。卒園した児童は園で過ごした年月も長かったため、自立していく喜びと同じくらい少し寂しさも感じているのが正直なところです。そんな2名の児童の思い出を少しお話ししたいと思います。まずはH君。H君は私と同じタイミングで愛育園の生活がスタートしました。ぽっちゃりした顔でニコニコ笑顔がとっても印象に残っています。また小さい頃から甘えん坊で先生の隣にいつもくっついていていたこともよく覚えています。小学生になりホームは別々になってしまいましたが、H君とする何気ない会話がとっても好きでした。誕生日を迎えるたびにどんどん成長し、今では私の身長をはるかに

超え、とっても大きく成長してくれました。担当の先生やホームの先生方の支えもあり、無事進路も決まり卒園する日を迎えることができ、とてもよかったです。

次はAさん。Aさんとは14年一緒に過ごしてきました。初めて出会ったとき大きな犬のぬいぐるみを大事そうに抱え、寝る時もいつも一緒でした。小さい頃からマイペースでAさんから〇〇やりたい！！と主張することは少なく、どちらかと言うとみんなの話をニコニコしながら聞いている姿が印象に残っています。おっとりとした性格の半面、実は自分の考えや芯がちゃんとある子で周りに流されない、そんな強い心を持っている子でもありました。高校3年生になり就職活動が本格的に始まり、面接練習や作文練習など本当によく頑張っていました。面接ではホームの先生方にも協力してもらい、内定をもらうまで毎日続けました。最初は自信なげに質問に答えていましたが、繰り返し練習をしていくと、だんだんと目を見てしゃべれるようになり、大きな声で自信をもってしゃべれるようになっていました。これだけでもすごい変化でした。しかし就職活動は思うように進まず、苦しい時間を過ごしたと思います。それでも途中で投げ出さず、自分の将来のために頑張ったAさんはとっても立派でした。そういった姿勢があったから、無事内定をもらうことができたのだと思います。

4月から2人は新生活がスタートします。何をやるにも初めてのことで慣れるまで苦労することもあると思いますが、焦らず自分のペースで進んでほしいです。また元気な姿を見られることを楽しみに、愛育園から応援しています！

『卒園式』

まごころ保育士 T・S

3月24日に卒園式が行われました。今年度は2名の卒園生を送り出しました。そのうちの1

人、Aさんを小6、中1、高2、高3の4年間、担当として関わらせていただきました。Aさんは控えめで大人しく、自分から前に出ていくタイプではありませんでしたが、自分のことを真面目にこつこつ取り組んでおり、文句や愚痴もあまり言わない頑張り屋でした。ただ、一番心配していたのがコミュニケーション能力でした。自分の言葉で伝えることが得意ではなく、会話が続きなかつたり、いざ考えを聞かれると言葉に詰まって考え込んでしまったりが多かったため、このままで大丈夫なのかととても心配していました。そして、高校3年の就職活動の時、最初Aさんは自分で考えるという姿勢ではなく、何か心配なことはある？と聞いても「特にない」と言っていました。その時点で私の方が本当に就職できるのか焦っており、Aさんに何度もそれで大丈夫かと伝えていました。ただ、今になって振り返ると、結局Aさんが本当に「これではマズイ」と心から思ったのは就職試験に2度落ちた時だと思います。これまで大きな挫折もなかったAさんが2度目の不採用の時に悔し泣きをしていて、今までそんな姿を見たことがなかったためとても驚きました。そこからは私が発破をかけてAさんが動くのではなく、Aさんも一緒に頑張っていると感じ、試験の結果はどうあれAさんが表情よく前向きに取り組んでいることがとても嬉しかったです。その後、就職は無事決まり、あとは卒園までしっかり準備を整えるだけとなりましたが、卒園式当日に至るまでAさんには心配のあまりあれこれ口うるさく言ってしまいました。それでもAさんは最後までとても良い表情で卒園を迎えることができ、「頑張ります」と言ってくれたことで、これまで頑張ってきた良かったと思えました。Aさんにとってこれからが本番なので、応援していきたいと思えます。



卒園式

あおぞらホーム F・K

今年度も円福寺愛育園の卒園式を無事に行うことができました。今年度は、あおぞらホームから1名、まごころホームからも1名の計2名の子が愛育園を卒園しました。

今年度の卒園式も卒園生の門出を祝い、未来を応援するためにたくさんの来賓の方々に集まっていたいただき、あたたかい雰囲気の中で卒園生を送り出すことができ、非常に良い式だったなと思います。私も卒園生のスーツ姿やスライドショーでの二人の思い出を見ながら、卒園生との思い出を心の中で振りかえると、「色々な事があったな」と感慨深い気持ちになり目頭が熱くなるのを感じました。

私はまだ愛育園で勤め始めて2年目ですが、愛育園での生活は刺激にあふれ、たくさんの思い出ができました。その思い出の中に、卒園生との思い出もたくさんあります。卒園生は2人とも

愛育園での生活が長く、私以上に愛育園での思い出がたくさんあると思います。そんな愛育園から巣立ち、大人としての第1歩を踏み出した2人は不安なこともあるかと思いますが、私は愛育園での生活の中で、楽しい事も辛い事もたくさん経験し成長した二人ならきっと明るい未来が待っていることを確信しています。これからも愛育園から応援しています。HくんAさんご卒園おめでとうございます。

卒園児童お別れの言葉



卒園生のH・Aです。僕は2歳の時から16年間愛育園で生活してきました。

卒園児童の言葉という事で、本来、愛育園での思い出などを語る所だと思うのですが、5か月前の75周年記念式典の意見発表でほとんどしゃべってしまいました。75周年の時は、心に残っている行事の事、高校受験の時に猛勉強した事、自衛隊の合格が決まった事を話しました。同じ話をしても良いかとも思ったのですが、どんな事を話せばいいか富沢先生に相談した所、せっかくなので私の心の成長について話す事にしました。

心の成長といっても、僕は、まだまだ心が弱いままです。誰かに何か意見を求められるとすぐに富沢先生の顔を見つめて助けを求めてしまいます。好きな食べ物を聞かされただけでも先生の顔を見てしまいます。とにかく甘えん坊で、いつも誰かに甘えていたいです。そのくせ僕は、何か注意を受けたり怒られるとすぐ腹を立てて不貞腐れたりします。見栄を張りたい気持ちも強いので、怒られても別に平気ですみたいなフリもします。

昔はそうだったけど、そんな僕も今では成長しましたという話ができたらよかったです、残念ながら相変わらず僕は心が弱く甘えん坊です。

ただ、昔と少し違う所があり、「自分って心弱いんだなあ〜」って自分で思える様にはなりました。

キッカケはたぶん高校1年生のある時に、T先生から心が弱かったとしても、人の為になる事もやれるし、心が弱かったとしても、自分自身が幸せになる事をあきらめるなど言われことです。

いつもは心を強くしろ強くしろ。という先生からそういわれて、その時なんだかうれしい気持ちになりました。それでも相変わらず見栄っ張りな僕ですが、虚勢を張って、変に自分を大きく見せる事は減りました。学校の先生になるという夢から自衛隊を目指すようになったのもちょうどこの頃からでした。

また僕が、このように変化して来られたのも、沢山の人の支えがあったからだと思っています

。園長先生やおぞらホームの先生やその他愛育園の全ての先生はもちろんですが、僕は小学校と中学校の担任の先生に誰よりも恵まれていると感じています。小学校の時のS先生、M先生、中学校の時のU先生。本当に本当に優しく、人一倍気にかけてくれて、本当に嬉しかったです。園の先生たちからも、「高校までの間で3人もいい先生に出会えるなんて隼人は本当に運がいい」とよく言われます。

明日僕は、16年間生活してきた愛育園を出て、神奈川県武山駐屯地に着隊します。沢山の人の支えてもらった僕だからこそ、困っている人の気持ちに寄り添える自衛官になれるように精一杯頑張っていきたいです。

在園児童の皆さん、皆さんは将来の夢を持っていますか？僕はこれまで、自衛官として困っている人の役に立ちたいという夢と、もう1つ、自分でしっかり働いてお金を稼いで社会の中で自立して生きていく。という目標をもって生活してきました。皆さんも将来の目標に向かって自分の力を高めていこうという気持ちでこれからの日々を送って欲しいです。

最後に、今年の2月にあった箸技大会について話をさせて下さい。今まで一度も優勝する事ができなかったけど、最後の大会でなんと念願の優勝する事ができました。(幼少期の写真を見せながら)こーんな小さな時から始めて、最後の最後に優勝する事ができて本当に嬉しかったです。何事も続けることが大事な事を実感しました。社会にでたら大変な事は沢山あると思いますが、絶対踏みとどまって頑張っていきます。

愛育園の先生方、学校の先生方、愛育園を支えてくださっている皆さん。これまで本当にありがとうございました。感謝の気持ちを胸にいつか恩返しができたらいいなと思っています。本当にありがとうございました。

(卒園生H・A)

卒園児童お別れの言葉



私は今日まで、14年間愛育園で、生活してきました。様々な行事や、ホームのみんなとの何気ないやりとりなど、大切な思い出が、言い尽くせないほどたくさんあります。1つ1つ取り上げたい所ですが、卒園を迎えるにあたって、改めて自分自身について、振り返った事をお話します。私は自分の考えを、言葉にして伝えるのが苦手です。そのため、困っていてもなかなか言い出せず、周りの人が気付いて手を貸してくれる事が、

何度もありました。中学生の頃は、それでなんとかやっていけましたが、高校に入学すると、周りは自分の事を知らない人たちばかりで、新しい人間関係を築くことが、とても大変でした。それでも、毎日学校に通い、授業や行事など、目の前のことを頑張った事で、友人もでき、充実した高校生活になりました。それも園の日課をしっかり送ったおかげだと思っています。そして、

何よりもこの高校3年生の1年間が、私にとって1番濃い1年でした。

3年生になり就職活動を始めたころ、なかなか自分の事として真剣になれず、どこか気持ちに余裕がありました。試験勉強や面接練習など、このくらいで大丈夫と思い、1社に臨んだ結果、不採用でした。そこでようやくこのままではまずいと気付き、自分の生活態度や試験に向けての姿勢を振り返りました。私は失敗や苦手なことを人に見せたくなくて、強がって隠してしまいがちでしたが、そういう自分の弱さとも向き合って、少しずつ認めることで、ホームの先生方を素直に頼る事ができました。しかし、そうして気持ちを入れかえて望んだ2社目も不採用でした。悔しくて仕方ありませんでした。頑張っても、どうせ無理かもしれないと、心が折れそうになりました。そんな時、先生たちは「絶対大丈夫」と、強く励ましてくれました。園長先生からは「Aちゃんの良いところをわかってくれる会社はきっとある」と言って下さった事が、とても嬉しかったです。そこからもう一度立て直し、とにかく前向きに試験に向けて準備をしました。苦手な面接練習も、毎日続けることで、だんだん先生方から良くなっていると言ってもらえる事が増え、自信になりました。そして、3社目で採用された時は、本当に嬉しかったです。信じて励ましてくれた園長先生、気持ちを引き締めてくれたI先生、気にかけて協力してくれたT先生、本当にありがとうございました。そして何度も話し合いをして自分に必要な事を一緒に考えてくれた担当のT先生やホームの先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。

私は4月から長野市のリネンサプライで働きます。自分が社会人となってしっかりやっていけるか正直不安もあります。ですが、自分にできることを1つ1つ積み重ね、自分にも人にも正直に日々努力していきたいと思えます。

これまで支えて下さった先生やホームのみなさん、本当にありがとうございました。

(卒園生 O・A)



在園児童代表の挨拶

在園児童代表 Y・S

Aさん、H君ご卒園おめでとうございます。在園児童を代表してあいさつ申し上げます。お二人のご卒園に際して、それぞれの印象に残っている姿についてお話させていただきます。

まず、H君の印象に残っていることをお話します。H君は大勢の人の前に立っても堂々としている姿がとても印象に残っています。運動会の応援合戦では、グラウンド中に響き渡るくらい声を出していて、すごいなと思いました。私は、人前に立って何かをすることが得意ではないため、大勢の人の前で堂々としている姿を見て、行事のたびに刺激を与えられていました。また、小さい頃からとても明るく、周りに元気を与えてくれていたのも覚えています。

次にAさん。Aさんとは長い年月を同じホームで過ごしてきました。その中で私が印象に残

っていることを二つお話します。

一つ目は、去年の書道パフォーマンスです。私は、Aさんと大文字を書かせてもらいました。私もAさんも初めての大きな文字で字の大きさやバランスをとるのにとっても苦戦したことをAさんは覚えていますか？私は何度やっても思うように書けなくて、「もう、いいや」と思っていた横で、Aさんは自分の字を見ながら、その場でひたすら書く練習をしていたのを知っています。愛育園祭当日は、今までにないくらい最高の作品を作ることができました。また、Aさんが書いた「道」は練習の時よりも上手く、人一倍努力するってこういうことだなと思いました。最高の作品と思い出をありがとう！

二つ目は、夏休み後から始まった就職活動に取り組む姿です。試験勉強や作文を学習の時間に必死に取り組んでいる姿や夜遅くまでまごころの先生、冨沢先生と面接練習をしている姿を見て、まごころ中高生全員が「すごいな」と思っていました。そして私も一年後そういう姿を年下の子たちに見せられたらなと思いました。また、就職活動が上手くいっていない中でも、弱音を吐かず、最後まで諦めずに頑張っている姿に私たちまごころ中高生は刺激を受けました。改めて、就職内定おめでとう！

最後に、四月からは、新しい環境になり、不安なこともたくさんあると思います。ですが、園での楽しかった思い出を思い出しながらそれぞれの場所で頑張ってください。私も、最高学年として、みんなを引っ張っていけるように頑張りたいです。私は、将来看護師になりたいと思っています。そのために、第一志望の専門学校に合格できるように、学習などに力を入れ、何事にも最後まで諦めずに取り組んでいきたいです。一年後、皆さんに合格の報告をできるように頑張ります。

最後になりますが、改めてAさん、H君ご卒園おめでとうございます。愛育園みんなでお二人のことを応援しています。

卒業・進級お祝い夕食会

あおぞらホーム K.A

3月16日に卒業・進級お祝い夕食会がありました。今年度も昨年度と同様にバイキング形式の夕食会が開催されました。今年度は自分で包んだり、焼いてみたりと、簡単な料理の手順も入り、子どもたちは皆それぞれ思い思いの材料で料理を楽しんでいました。

小学二年生のA君はトルティーヤに自分の好きな具材を入れ、上手に巻くことができ、とても満足げにトルティーヤをほおばっていました。また、デザートのカレーやチョコフォンデュも沢山食べ、満足した様子を見せていました。また、小学二年生のH君はメインの料理を食べる途中で、デザートが気になってしまったようで、メイン料理を食べながらも、「デザート





まだ?」「早く食べたい!!」などと言っていました。デザートになると一番先にデザートの方へ行き、嬉しそうにデザートを選んだり、作ったりしていました。

今年度はそれぞれの学校を卒業する子も多く、卒園生も二人いました。それぞれの道に進んでいく、卒園生の二人を皆で送り出すことができ、とても嬉しかったです。それぞれの道に進んでも、2人らしく頑張っていって欲しいと思います。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム A・Y

暖かな春の日差しを感じ、桜の開花も近づく季節となりました。愛育園ではつい先日卒園式が挙行されました。卒園生を送り出した後は、子どもたちそれぞれが新学期に向け準備を進めています。春休み期間中は、外遊びへ出掛けたり、釣りへ行ったり、ボーリングをしたりと、とても充実した春休みになったのではないかなと思います。春休みを満喫した分、新年度からの生活に力を入れ頑張りたいです。

今年度あおぞらホームからは、中学校へ入学する子が1名、高校入学が3名と新しい環境へ行く子どもたちが多くいます。環境が変わることへの不安や期待も入り混じる中ではあるかと思いますが、ぜひ頑張りたいと思います。

まごころホームだより

まごころホーム M・H

気温が上がったと思ったら雪が降ったりと安定しない天気が続いています。まごころホームでは高校3年生が1人、卒園を迎えました。長い時間、共に過ごした子どもたちもいて、これで別れになってしまうのが寂しそうでした。無事にみんなで温かく送り出せてよかったですと思います。残った子どもたちも入学や進級になります。中学校への入学が一人、高校へ入学する子どもが二人います。良い新年度を迎えられるよう、しっかり準備していきたいと思います。学習も、それぞれ一年のまとめをし、不安要素を残さないよう、見ていきたいです。

4月からの新たな生活に期待と不安があると思います。体調管理に気をつけながら、心に寄り添った支援をしていけたらと思います。

調理室だより

調理員 K・N

今年度も感激の卒園式が行われました。

H君とAさん 進む道は違いますが、思い出いっぱいの愛育園から胸を張り元気に旅立つその姿に、二人の幸せを願い見送りました。

【3月も特別メニュー】が盛りだくさんです

2日：ひな祭りメニュー

5日：後期選抜応援メニュー

15日：やしょうま作り

16日：卒園お祝い夕食会（体育館で一味真さんによるケイタリング）

18日：お彼岸 おはぎ

20日：卒園お祝いメニュー

24日：卒園式（かつ玄さんのお弁当）

【3月誕生日メニュー】

3日：Rさん ・ねぎトロ丼・ハッシュドポテト・ポテトサラダ・いちごシェイク

11日：K君 ・スタ丼・サクサクフライドチキン・サケチーサラダ

17日：A君 ・みそラーメン・ハンバーグ・ポテトチップスサラダ・どら焼き

19日：S君 ・トマト鍋・イカリングフライ・カプレーゼ・ジュース

25日：園長先生・手打ちそば・天ぷら・ほうれん草のお浸し・フルーツインゼリー

